

# 1 学校教育目標及び目指す学校像

## 教 育 目 標

「よく学び、心豊かでたくましい児童の育成」

### 具 体 目 標 (めざす子ども像)

- ◎かしこく (確かな学び) ○基礎的な知識・技能の習得とそれらを活用して思考力・判断力・表現力等を育てる。  
○共に学びあう力とともに、自ら学び、考えるなど、主体的に学習に取り組む力を育てる。  
○聴く(聞く)ことを中心に、話す・読み・書き、コミュニケーション力など、生活の中の国語力の向上を目指す。
- ◎やさしく (豊かな心) ○共生(協力、思いやり)と自立・自律できる力を育て、いじめや不登校のない楽しい学校生活を築く力を育てる。  
○豊かに伝え合う力を育てる。  
○豊かな体験活動や読書、文化活動を通して豊かな感性を育てる。
- ◎たくましく (安全・安心・健康・体力) ○基本的な生活習慣の確立を目指す。  
○家庭と共に「早寝、早起き、朝ご飯」を推進する。  
○日常的に運動に親しみ身体づくりを進める。  
○安全・安心な生活をしていく力を育てる。
- ◎やりぬく (大きな志) ○自分の良さを知り、将来への夢を育てる。  
○自ら目標を立て、計画し、実行できる力を育てる。  
○責任感と耐性を育てる。

### めざす学校像 (学校目標実現のための三つの要素)

学校教育目標の実現のために、三つの要素に取り組んでいきます。それは「子どもの問題」「地域や父母の問題」「学校や私たち教職員の問題」です。

基本的には、「子どもたちがきちんと育つ」ための教育環境全般の構築です。それにはまず、「子どもたちがもっと学びたいという意欲や将来の夢を持ち、一人ひとりに居場所のある、明るく楽しい学校」の実現です。そのためには、「開かれた、地域や保護者に信頼される学校」をつくることです。また、私たち教職員が「一人ひとりの特性を發揮して活動し、やりがいと誇りを持てる学校」の創造をめざすことです。これら三つが有機的に連携してこそ、学校目標に迫っていくことが出来ます。目指す学校像をこの三つの要素に基づいて次のようにします。

**学校大好き、友達大好き、勉強・運動大好き、先生大好き、**

**という子ども達がたくさんいる学校**

- ・子どもたちがもっと学びたいという意欲や将来の夢をもち、一人ひとりに居場所のある、明るく楽しい学校
- ・開かれた、地域や保護者に信頼される学校
- ・教職員一人ひとりが特性を發揮して活動し、やりがいと誇りを持てる学校

## 2 学校教育目標具現化のための基本方針

- 1) 児童の実態や地域、父母の願いに即し、地域に開かれた、信頼される学校づくりを目ざす教育課程を編成する。
- 2) 新指導要領への円滑な移行を踏まえ、適切な授業時数を配置するとともに、各教科ごとに定められた特例に基づいた指導計画を作成する。
- 3) 児童相互、児童と教師、教師相互の学び合う関係をつくり、学ぶ意欲の伸長と基礎・基本の習得を図り、これらを活用し、思考力・判断力・表現力等を育む学習指導を推進する。
- 4) 人や自然との多様なふれあいを通じ、豊かな心を育み、人間としての生き方の基礎を培う生徒指導に努める。
- 5) 健康や安全を大切に活動工夫し、安全・安心の学校生活を築くと共に運動の日常化を進め、心身とも健全な児童の育成を図る。
- 6) 環境・福祉・情報・国際理解・食教育・郷土学習等、現代的課題や伝統や文化に関する教育の推進を図る。
- 7) 自分の良さを知り、自立意識を涵養し、働くことへの関心や、将来への夢や希望が持てるキャリア教育の推進を図る。
- 8) 児童の成長を促すことを通してやり甲斐と誇りを持ち、協働により職員相互の和と信頼関係を深め、活力ある学校づくりに努める。
- 9) 教育環境の整備に努めるとともに、自ら環境整備に取り組む児童の育成を図る。

## 3 本年度の指導重点

### 1) 子どもが主体的に学ぶ学習指導

- ◇聴き合い、学び合い、育ち合う質の高い授業の創造に努める。
- ・教材や教具の工夫など、授業をしっかりと準備し、児童と教材、児童同士、児童と教師の豊かな関係を築き、学ぶ意欲の向上を目指す。
  - ・一人一人の気付きや発想を大切に、個に応じた指導の工夫を図り、主体的に学ぶ態度を育てる。
  - ・指導のねらいや1時間1時間の授業のねらいを明確にし、基礎的・基本的な事項を確実に身につけさせるとともに、それらを活用して、思考力・判断力・表現力等を育む。
  - ・父母の学習参加や地域の人材・施設の有効活用を計画的に進め、豊かな学習活動を図る。
  - ・評価規準を明確にし、良さを認める評価を積み重ね、学習指導の改善に役立てる。
  - ・国語科を中心として全ての教科、道徳、総合的な学習の時間、学級指導、読書指導等を通し、聞く、話す、読む、書く等の国語力の向上を目指す。
  - ・総合的な学習の時間の充実を図るため、児童の問題意識を喚起し、見通しある年度計画を立て、体験活動や探求的な学習を通して、自ら考える力や表現力を育む実践に努める。
  - ・父母と協力し、充実した宿題等、家庭学習の時間の確保と充実を進め、学習習慣の確立を図る。

### 2) 人と人との豊かな関わりを通し、楽しく充実した学校生活を築く生徒指導

- ◇適切な児童理解に努め、人と人とのふれあいを深め、信頼関係を高め、望ましい人間関係を築く中で楽しい学校生活を送れるよう配慮する生徒指導に努める。
- ・児童一人一人の理解に努め、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てる中で、いじめや不登校のない楽しい学校生活を送れるよう配慮する。
  - ・生徒指導校内委員会を中心に児童理解のための資料を計画的・継続的に収集し、共通理解に基づく指導体制を確立する。
  - ・児童同士や集団の中の問題を話し合い等により、互いに人格を尊重し合いながら解決できるよう見守り、指導する。
  - ・民主的な手続きを通して目標や規範を設定し、協力し合い実践する中で、充実した学校

生活が送れるよう指導する。

- ・家庭・地域との連携を深め、「声かけ・挨拶」「早寝・早起き・朝ご飯」等、学校生活の基礎となる基本的な生活習慣の形成に努める。
- ・児童会の校風、「あきたの心」（あいさつ、きまりを守る、たすけあう）を継承推進する。
- ・子ども達が自分たちの手で何かを創り上げていく、そういう実感がもてるような行事、児童会活動、委員会活動等を推進する。

### 3) 豊かな体験活動を通して、思いやりなど豊かな心を育む

◇人と人、人と自然等の望ましい関係を育てる中で、思いやりの心など、豊かな心を培う。

- ・人間的なふれあいを大切にしながら、自然に親しむ活動、勤労体験や生産的・奉仕的な活動などを通して豊かな心を育む。
- ・道徳の時間を中心に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動など、児童と共に考え、悩み、感動を共有する姿勢を基に、道徳的価値の自覚や、道徳的実践力を育む。
- ・家庭や地域、また、関係機関と積極的に交流・連携を図り、社会生活上のルールや基本的なモラルなどの規範意識を育てる。
- ・読書活動の充実や文化芸術活動、また、優れた文化芸術に親しむ機会を増やし、豊かな感性と情操の育成を図る。
- ・あらゆる場面を通して、「生命の教育」を積極的に推進する。
- ・父母と協力し、家庭での会話を奨励し、促す活動を進める。

### 4) 健康・安全意識の向上と運動の日常化を図る

◇自分の生命も他人の生命も尊重する意識を高め、健康で安全な生活習慣の定着を図り、運動の楽しさを知り、日常的に身体づくりに取り組む児童を育てる。

- ・保健指導を中心に、学校教育活動全体を通じ、また、家庭・地域との協力関係の中で、望ましい生活習慣の定着を図る。
- ・体育の授業を中心に、朝の活動に時間・休み時間・放課後（学級遊び、縦割り班の取り組み日）を有効に使い、運動の日常化を図り、運動の楽しさを味わわせ、進んで運動に親しむ。
- ・給食の時間を中心に、栄養のバランスや規則正しい食生活、食べる事への感謝や食文化、マナー等、食教育の充実を図る。
- ・秋田小学校地域安全推進委員会やスクールガード、PTAと連携を取り、安全確保に努め、自主的に安全な行動が取れたり、危険を回避出来たりする児童を育てる。

### 5) その子の特性に応じた特別支援教育を推進する

◇障害の状態及び発達段階や特性等を的確に把握し、目標や指導内容・指導計画を明確にし、児童が主体的に課題に取り組めるように努める。

- ・特別支援校内委員会を中心に、実態や特性の把握に努め、目標や指導計画を作成し、教師集団の共通理解のもとで適切な指導に努める。
- ・教材や教具の工夫、具体的体験活動など、児童が興味を持って主体的に取り組み、成就感が味わえる指導に努める。
- ・保護者、スクールカウンセラー、関係諸機関及び地域の特別支援学校との連携を図り、指導の充実に努める。

### 6) 将来への夢がふくらむキャリア教育の推進

◇教科や総合的な学習の時間、道徳、特別活動などを通じて、働くことや生き方、そして、自分を見つめ、自分のよさを知り、将来への夢がふくらむキャリア教育を推進する。

- ・自分の考えを持ち、相手の考えも認め、協力して課題を解決していけるようなコミュニケーション力を培う。
- ・様々な情報を選択し、また、自らの体験を生かし、自分の意見を持ち、的確に表現する

力を養う。

- ・目標を持ち、見通しを立て実践し、達成感を味わう等、現実を踏まえ前向きに行動する中で、将来への夢や希望を育む。

## 7) 現代社会の課題へ取り組む教育の推進

◇環境、福祉、国際理解、情報、郷土学習等、現代的課題に取り組む。

- ・身近な自然と関わり合うことを通して、環境への関心と理解を深め、環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育てるよう努める。
- ・高齢者や障害者・弱い立場にある人たち等との交流を通して、福祉への関心と理解を深め、共に生きる心を育み、実践する態度を養うように努める。
- ・外国の人や遊び、言葉などに親しみ、諸外国の文化と伝統を理解し、尊重する態度を育て、豊かな国際感覚を育むように努める。
- ・コンピュータ・図書・新聞・テレビ・ラジオ・電話・手紙等の情報手段の活用を図り、情報活用能力の育成に努める。
- ・地域の自然・文化・産業・歴史などを授業や学習活動の中に取り入れ、地域への理解を促していく。

## 8) 家庭や地域社会との積極的な交流を通し、信頼される学校を築く

◇子どもたちの学習・生活・体力・安全をより豊かに促す方向で、人と人との積極的な交流を図る。

- ・父母、地域の人、地域教材、地域の施設を学校教育に積極的に取り入れる。
- ・授業や行事を出来るだけ保護者、地域の人に開放していく。
- ・自己評価項目が学校改善に繋がるよう見直すとともに、2年目となる学校関係者評価をより充実させる。
- ・自己評価、保護者評価、関係者評価の結果を保護者・地域に公表し、共通理解のもと課題に取り組めるようにしていく。
- ・秋田小学校地域安全推進委員会の継続とスクールガードの拡充を推進する。
- ・「声かけ、挨拶」「早寝、早起き、朝ご飯」「学年×10分+10分の学習」「親子読書」「ラジオ体操」などの地域への呼びかけと、積極的参加を促す。
- ・学校だより、学年だより、連絡ノート、ホームページ等を通して情報発信を定期的にかつ積極的に行う。
- ・学校の施設設備の安全確認、子どもを中心とした豊かな教育活動を推進する適正な予算の執行に心がける。

## 9) 秋田っ子の成長を育む協働の中で、秋田小職員としてのやり甲斐と誇りを築く

◇子どもたちの成長を促すことでの課題を持ち、校内研究や研修に取り組み、教育の専門職として、豊かな実践力を身につける。

- ・お互いに子どもを中心に学び合い、交流し、豊かな教育実践を築く。(全員の授業公開と研究会への積極的な参加。)
- ・目標を具体的に掲げ自己研鑽に励む。(新しい課題への対応と自己研修。自己観察書の目標が子どもの成長と自己研鑽に結びつくものに。一人一課題への取り組みと発表。)
- ・学校に勤務するものとして、その服務や個人情報管理を徹底し、社会的モラルの向上に努める。